

新任土木部長が明言「スーパー堤防は合意なくとも進める」 「住民との話し合いは考えてない」「強制執行は必要があればやる」



3つの会と土木部との意見交換（左側が土木部）



右から渡邊拓美氏、篠崎住民の会代表渡邊清明氏、戸口運営委員長、18班森須副代表、18班宮坂代表

新任の浅川土木部長が強硬姿勢の発言！ 3つの「考える会」との意見交換の席上で

これら土木部長の発言は、平成19年の笠井亮衆院議員（日本共産党）の「スーパー堤防計画の見直しに関する質問主意書（会ニュース17号掲載）」に対し、安倍総理大臣（当時）の「当然のことながら住民の方々のご意向を尊重しながら、という立場に変わりはない」と明言したことを無視するものであり、許せるものではありません。

7月16日（土）午後6時より小岩アバンプラザにて、18班の呼び掛けで江戸川区土木部長との話し合いが行なわれました。区側からは土木部長の他、沿川まちづくり課長と保全課長、小岩事務所担当の4名が参加しました。

始めに北小岩考える会の渡邊拓美氏が、スライドを使って区の説明の問題点や行政の進め方などを批判し、さらに清新町の実態や盛り土の危険性などを指摘、スーパー堤防計画は街づくりではなく「街こわしだ」としました。これに対し、浅川土木部長は挨拶の中で、「スーパー堤防問題で皆様にご心労を掛けている。「街こわし」と言われたが、良い街を造るためにも皆さんの不安に対して一つ一つ応えて不安を払拭していくのが我々の使命だ」と応じ、住民との質問のやりとりに入りました。

参加住民から、浅川部長の姿勢と区の考え方を問い質す中で、国の方向性も定まっていない現時点で、「スーパー堤防は多数の賛成もあるので、合意はなくても進める」と昨年の町会、自治会を利用した不当な署名をバックに言い切りました。そして「スーパー堤防の是非についての住民との話し合いは考えていない。計画を進めるための説明会をしていく」としました。

さらに前土木部長の土屋氏の「住民の合意なき直接施行（強制執行）はやらない」との住民との約束発言を翻し、浅川土木部長は「直接施行は必要があればやる」とまでいいました。

このように、スーパー堤防建設には区は強硬な態度を崩してはいません。私たちは油断することなく、建設反対の運動を、さらに進めていこうではありませんか。